

ホットライン

2011 年

第2回 日米露三極有識者会合

日時：2011 年 1 月 17－18 日

場所：日本国際問題研究所大会議室

主催：日本 日本国際問題研究所（JIIA）

アメリカ 戦略国際問題研究所（CSIS）

ロシア 世界経済国際関係研究所（IMEMO）

参加者

日本

野上 義二	日本国際問題研究所理事長
伊藤 庄一	日本エネルギー問題研究所主任研究員
岩下 明裕	北海道大学スラブ研究センター教授
梅本 哲也	静岡県立大学教授
神谷 万丈	防衛大学校教授
金田 秀昭	日本国際問題研究所客員研究員／岡崎研究所理事
斎木 尚子	日本国際問題研究所副所長
下斗米 伸夫	法政大学教授
高原 明生	東京大学教授
西原 正	平和・安全保障研究所理事長
横川 和穂	日本国際問題研究所研究員

アメリカ

John HAMRE	President and CEO, CSIS
Ernest BOWER	Senior Adviser and Director, Southeast Asia Program, CSIS
Edward CHOW	Senior Fellow, Energy and National Security Program, CSIS
Michael GREEN	Senior Adviser and Japan Chair, CSIS
Andrew KUCHINS	Senior Fellow and Director, Russia and Eurasia Program, CSIS
Paul STARES	General John W. Vessey Senior Fellow for Conflict Prevention/Director, Center for Preventive Action, Council on Foreign Relations (CFR)
Travis MILLS	Research Assistant, CSIS

ロシア

Alexander DYNKIN	Director, IMEMO
Major General (ret.) Vladimir DVORKIN	Center of the International Safety, IMEMO
Vasily MIKHEEV	Vice President, IMEMO
Vitaly SHVIDKO	Senior Researcher, Asian & Pacific Studies Center, IMEMO
Elena TELEGINA	Head of Department of Strategic Management of Fuel and Energy Complex, Russian State University of Oil and Gas
Fedor VOITOLOVSKY	Head of Section of US Foreign and Domestic Policy, IMEMO

会合の概要

日本国際問題研究所は、2011年1月17-18日の2日間にわたり、アメリカ戦略国際問題研究所（CSIS）およびロシア世界経済国際関係研究所（IMEMO）との共催で、第2回日米露三極有識者会合を開催した。同会合では、昨年3月にワシントンD.C.で行われた第1回会合に引き続き、アジア太平洋地域における安全保障上の諸課題に対処していくための協力の可能性について、日米露三カ国の有識者による報告と議論が行われた。第1回会合において、アジア太平洋地域において如何なる安全保障上の問題が存在するののかについて三カ国間で認識を共有したことを踏まえ、今回は3つのテーマに関する様々なシナリオに基づいた、よりアクション・オリエンテッドな議論が中心となった。なお、本会合は非公開との位置付けのため、ここでは会合の概略のみ紹介する。

会合では1日目に1つ、2日目に2つのセッションが開催された。第1セッション「北朝鮮の内政・核問題をめぐるシナリオ」では、北朝鮮における権力の後継に伴う体制の不安定化の可能性や核開発の問題、北朝鮮へのエンゲージメントにおいてどのような協力の形があり得るかが、日米露三カ国に加え周辺国の反応も視野に入れて話し合われた。第2セッション「極東・東シベリアのエネルギー安全保障をめぐるシナリオ」では、中国の巨大なエネルギー需要とロシアの石油・天然ガスなどの資源供給力を軸に、いかに各国の利害を調整しつつ東アジア地域のエネルギー需給を安定的に満たしていくかが話し合われ、民間レベルでの協力や多国間のフレームワークづくりなども含めた具体的な方法が提案された。第3セッション「東アジアの海洋秩序をめぐるシナリオ」では、海賊問題などの海洋秩序を乱す事案の増大を受けて、東アジア地域の海洋秩序の安定を維持するための方策が議論された。日米露はこれまでも二国間では様々な形で海上での協力を積み重ねてきたが、日米露三カ国による協力のほか、周辺国も含めたマルチラテラルな協力枠組みについても提案があり、これらの可能性や課題が検討された。また、17日夜には飯倉公館において前原外務大臣主催の夕食会が開催され、大臣も中長期的に見た日本外交にとっての本会合の意義を強調された。今後、さらなる議論を経て、最終的に三カ国政府への政策提言をまとめる予定であり、2012年にロシアで開催される第3回会合に向けて、そのための調整を進めていくことで合意した。